

臨床福祉専門学校
理学療法学科（昼間部）平成 29 年度 第二回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成 30 年 2 月 13 日（火） 19：00～20：00

場所：臨床福祉専門学校 3F 会議室

出席委員及び所属

中村 岳雪（東京都理学療法士協会 理事）

下河辺 雅也（山田記念病院 技師長）

水落 太郎（明和病院 リハビリテーション科 主任）

石垣 栄司（臨床福祉専門学校 理学療法学科統括学科長）

吉葉 則和（臨床福祉専門学校 理学療法学科学科長）

樋口 豊朗（臨床福祉専門学校 教務課 主任）

本日の会議開催の趣旨説明

石垣：平成 31 年度より、専門職大学を本校で開校予定、それにより

理学療法学科（専門学校）は今年度の募集を最後に、昼間部（平成 32 年度）・夜間部（平成 33 年度）に廃科となる。今後、将来的に新たに 3 年制の P T の学科を作るという想定はあるが、正直不透明。

いずれにせよ、廃科が決まっている本校においては、この教育課程編成委員会の場において、何を重点的に議論していくか、一度軌道修正を行いたい。

本日は昼夜間共通の話題として、それを踏まえた意見交換を主に行う。

意見交換

下河辺：この校舎を、専門職大学として平成 31 年度より開校という事であれば、学生（専門学校）を如何に最短で卒業させていくかが焦点となる。色々な課題があるように思える。

水落：おそらく基準を度外視で、卒業・進級を認めざるおえないところが出てくるのだろうが、専門的能力を磨き、育成する事が本来の専門学校の有り方に対して、真逆の運営をせざるおえない事情があるように思える。それは学校として致し方ないのか？

石垣：専門職大学開設が最優先という学園の方針である以上、卒業・進級の基準等見直す必要がある。

中村：そういう実情がある中で、大事なのは学生のモチベーションをとにかく落さない
事が必要。医療職であるからには、授業や実技もそれなりの質は保たなければ
ならないだろう。その為には、以前から議論されていた他分野・多職種の関係性
や介入も教育の一環としての継続が必要になる。

水落：現時点で一番危惧されることは？

石垣：やはり、外部実習であるのは間違いない。ある程度方針を設けたとしても
基本的には各病院の裁量に委ねるしかないという点。

吉葉：過去の傾向として、実習教育者と折が合わない、また生の患者を目の当たりに
して、数日で続けられない学生が必ず出る。今後は休学という選択肢も狭められ
る為に、いかに実習を乗り切るかがポイントとなる。

中村：実習教育者会議における学校と医療現場との意思疎通と
学生に資格を取る為の一つの壁という概念を取り払い、実習は楽しいものという
意識付が必要。

石垣：今後の重点項目がある程度精査できた。

- ・早い時期からの実習対策を設ける。
- ・実習を楽しみに出来る取り組み

今後の継続審議とする。

以上